

- 問1 弥生時代に作られた吉野ヶ里遺跡のような「環濠集落」が、縄文時代の集落にはほとんど見られない防御的な構造（深い堀や土塁など）を持つようになった背景として、最も適切な理由はどれか。（2026年 大阪府公立入試 類似）
- 大陸から伝わった稲作によって食料の備蓄が可能になり、土地や水を巡る集落間の争いが始まったため。
 - 巨大な前方後円墳を造営するための土を確保する目的で、居住地の周囲を深く掘り下げる必要があったため。
 - 大規模な建築技術が導入されたことで、権力者の権威を象徴するための装飾として堀を作ることが流行したため。
 - 狩猟採集が中心の社会において、森から降りてくる野生動物の侵入を物理的に遮断する必要があったため。
- 問2 佐賀県で発見された弥生時代の代表的な遺跡について述べた文として、正しいものはどれか。この遺跡は、大規模な堀や土塁を巡らせた集落の跡として知られている。（2026年 大阪府公立入試 類似）
- 吉野ヶ里遺跡では、外敵を防ぐための深い堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されている。
 - 登呂遺跡では、弥生時代の水田跡や木製農具が静岡県で発見されている。
 - 三内丸山遺跡では、縄文時代の大規模な定住集落跡が青森県で確認されている。
 - 唐古・鍵遺跡では、奈良県において弥生時代の環濠集落や多量の木製品が見つかった。
- 問3 古代の東アジアにおいて、倭（日本）などの周辺諸国の首長や国王が、中国の皇帝に使者を送り、貢物を捧げた外交形式を何と呼びますか。この形式において、使者は中国の皇帝からその地域の支配権を認められ、称号や金印を授かることで、自らの権威を高めようとした。（2024年 宮崎県公立入試 類似）
- 民間貿易
 - 通商
 - 朝貢
 - 冊封
- 問4 弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に日本列島へ伝わりました。それぞれの金属器が果たした役割の違いについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）
- 鉄器は定期市での取引を円滑にするために使われ、青銅器はイスラム教の礼拝の道具として使われた
 - 青銅器は前方後円墳に埋葬するための副葬品として作られ、鉄器は神社の建築のために使われた
 - 青銅器は加工のしやすさを活かして農具や工具として普及し、鉄器は主に祭りの道具として使われた
 - 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた
- 問5 日本の弥生時代中期には、現在の千葉県茂原市に位置する宮ノ台遺跡から出土した「宮ノ台式土器」に代表されるような地域独自の文化が見られました。この日本の弥生時代中期と同じ頃、地中海周辺を中心とする世界ではどのような歴史的な動きがありましたか。（2023年 千葉県公立入試 類似）
- 中国で殷（商）が成立し、祭祀に用いるための精巧な青銅器が作られていた。
 - エジプトで巨大なピラミッドが建設され、王の強大な権力が示されていた。
 - ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。
 - メソポタミアでハンムラビ王が法典を整え、周辺地域を統一した。
- 問6 弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった青銅器のうち、表面に幾何学模様や当時の生活・自然の様子が描かれ、釣鐘のような独特の形状をしている道具の主な用途として最も適切なものを選びなさい。（2023年 三重県公立入試 類似）
- 獲物を捕らえたり身を守ったりするための狩りの道具
 - 豊作などを祈るための祭りの道具
 - 食料を保存し煮炊きをするための道具
 - 土を耕し田植えをするための農業用の道具
- 問7 佐賀県の吉野ヶ里遺跡のような「環濠集落」が弥生時代に多く見られるようになった背景として、当時の社会状況を説明した記述として最も適切なものを次から選びなさい。（2023年 佐賀県公立入試 類似）
- 稲作が始まり、余剰生産物や土地・水をめぐる集落間の争いが激しくなったため。
 - 大陸から馬や牛などの家畜が導入され、それらが逃げ出さないように囲いを作る必要があったため。
 - 狩猟や採集を中心とした生活から、山岳地帯に拠点を移して生活を守るため。
 - 大規模な祭祀を行う場所を確保するため、居住区と神聖な場所を区別する必要が生じたため。
- 問8 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。（2026年 新潟県公立入試 類似）
- 銅鏡
 - 銅鐸
 - 石包丁
 - 銅剣
- 問9 福岡県の志賀島で発見された、金で作られた「漢委奴国王」の印（金印）が示している歴史的事実として適切なものを選んでください。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
- 聖徳太子が小野妹子を隋に派遣し、中国と対等な外交関係を築こうとした。
 - 日本が中国の進んだ制度を取り入れるために、多くの留学生を伴う遣唐使を派遣した。
 - 倭の奴国の王が中国の漢（後漢）へ使いを送り、皇帝から王の地位を認められた。
 - 邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から親魏倭王の称号と銅鏡を授けられた。
- 問10 紀元1世紀、倭の奴国の王が大陸へ使節を送り、後漢の皇帝から授けられたとされる金印について、その事実が記述されている中国の歴史書として正しいものはどれですか。（2023年 富山県公立入試 類似）
- 「宋書」倭国伝
 - 「魏志」倭人伝
 - 「隋書」倭国伝
 - 「後漢書」東夷伝
- 問11 弥生時代に始まった、青銅器と鉄器の使い分けに関する背景について、正しい説明はどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）
- 石器から鉄器への移行を嫌った指導者たちが、妥協案として青銅器を儀式に導入した
 - 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった
 - 青銅は鉄よりも耐久性に優れていたため、大規模な土木工事の道具としてのみ使われた
 - 青銅器は弥生時代の中頃に全て回収され、その原料はすべて鉄器の製造に再利用された
- 問12 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2022年 広島県公立入試 類似）
- 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。
 - 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。
 - 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。
 - 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。
- 問13 中国大陸や朝鮮半島から九州北部へ伝わった稲作が東日本へと広まった時代、収穫を祈る祭りが重要視されるようになりました。この時代に祭りの道具として作られた、つりがねのような形をした青銅器を何と呼びますか。（2023年 長野県公立入試 類似）
- 銅鐸
 - 埴輪
 - 縄文土器
 - 打製石器